

令和 3 年 6 月 14 日現在

機関番号：32507

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2020

課題番号：15K11726

研究課題名(和文) 幼児の社会・情緒的問題の評価尺度 - 日本語版ITSEAの標準化と活用に向けて -

研究課題名(英文) Standardization and inflection of the Japanese version of the Infant-Toddler Social and Emotional Assessment

研究代表者

河村 秋 (Kawamura, Aki)

和洋女子大学・看護学部・准教授

研究者番号：50719094

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、日本語版Infant-Toddler Social and Emotional Assessment(ITSEA)の標準化と活用をめざした。日本の自閉スペクトラム症、あるいは疑いのある1～3歳未満の児(臨床群)と対照群について、日本語版ITSEA得点の傾向を比較した。各群について、新版K式発達検査2001得点との相関を算出し比較検討した。日本語版ITSEAと原版ITSEAにおける臨床群の得点傾向を比較した。結果、日本の臨床群に属する児の特徴と発達の傾向が確認された。また、日本語版ITSEAの収束的妥当性が示され、原版ITSEAとの相違点も明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

自閉スペクトラム症の診断を受けたあるいは疑いのある児の日本語版ITSEA得点の傾向から、日本語版ITSEAの収束的妥当性が示唆された。加えて、原版ITSEAとの得点傾向の相違が明らかになった。そのため、日本独自の標準値、カットオフ値設定の必要性が示された。2020年はデータ分析と論文執筆、全国調査のための準備を実施した。引き続き、全国調査実施、標準値・カットオフ値設定、マニュアル作成を行なう。それにより、育てづらさや発達上の気がかりを持つ養育者が、子どもの特徴を理解し、子どもへの関わり方を知る事を可能にする。また、支援者が、適切な支援を提供することを可能にすると考えられる。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to standardize and utilize the Japanese version of the Infant-Toddler Social and Emotional Assessment (ITSEA), a scale that assesses the social and emotional problems and competences of children. We compared the trends of the Japanese version of the ITSEA (J-ITSEA) scores of Japanese children aged 1 to 3 years with autism spectrum disorder or suspected autism spectrum disorder (clinical group) and a control group. For each group, correlations with the Kyoto Scale of Psychological Development 2001 scores were calculated and compared. We then compared the trends of the clinical groups' scores on the J-ITSEA and the original version of the ITSEA. As a result, the characteristics and developmental trends of children belonging to the Japanese clinical group were revealed. In addition, the convergent validity of the J-ITSEA was confirmed, and the differences between the J-ITSEA and the original ITSEA become clear.

研究分野：生涯発達看護学

キーワード：幼児の社会情緒的問題 自閉スペクトラム症 尺度開発

様式 C-19、F-19-1、Z-19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

現在、発達障害を持つ、あるいは診断は受けていないが、育てづらさや発達上で気がかりな点があるなどの「気になる子」の問題は、子育て不安、親子関係の阻害、ひいては虐待につながる要因としても重視すべきものとなっている。ITSEA (Infant-Toddler Social and Emotional Assessment) は、幼児の社会・情緒的問題をアセスメントするために、アメリカで開発された尺度であり、世界で使用されている。1～3歳の幼児の社会・情緒的発達の問題、さらにはその子の持つ能力について査定することができる。ITSEA は4つの領域(外在化問題、内在化問題、調整不全問題、能力)、17下位尺度、さらに3項目群、発達に関する心配の有無などを問う2項目から構成される。筆者は原版 ITSEA を元に日本語版 ITSEA の開発と、その信頼性と妥当性についての確認を行った。

2. 研究の目的

上記の背景に続き、本研究では、さらにデータを収集し、日本における標準化、カットオフポイント設定、質問紙の作成、マニュアルの作成により、日本語版 ITSEA の日本での活用を目的とした。

それにより、育てづらさや発達上の気がかりを持つ養育者が、子どもの育てづらさや気がかりな原因がどのような問題領域のものなのか、さらに強みとなるのはどのような能力なのかといった子どもの特徴を理解し、子どもへのかかわり方を知ることにつながる。また、乳幼児健診や相談の場において保健師などの支援者が子どもの問題と能力を把握し、適切な支援やサービスにつなげられると考えた。

3. 研究の方法

研究デザイン 方法論的研究；質問紙調査

(1) 日本語版 ITSEA の構成概念妥当性の検証とカットオフポイントの設定

① 研究対象者

以下のいずれかの要件を満たす幼児(12～35か月30日令)とその養育者120人(男児60人、女児60人)

臨床群：

ア. 乳幼児健診や医療施設から、発達の遅れを指摘され、自閉スペクトラム症の診断を受けているあるいはその疑いのある幼児

イ. 新版K式発達検査2001のいずれかの領域において発達遅延が認められる幼児

対照群：

ア. 乳幼児健診や医療施設から、発達上の問題を指摘されたことがない幼児

イ. 新版K式発達検査2001のいずれかの領域において発達遅延が認められない幼児

ウ. 医療者及び養育者が、行動、情緒、人との関係性の持ち方に関して問題を認識していないまたは著しい不安を感じていない幼児

② データ収集の方法

研究協力施設の施設長の了解が得られた利用者に対して、研究分担者が声をかけ、研究方法の説明のうえ、研究への参加を依頼し、同意書を取り交わした。日本語版 ITSEA 質問紙を手渡し、記入を依頼した。記入中に対象時に対して発達検査(新版K式発達検査2001)を実施した。

③ 分析方法

ア. 臨床群、対照群の日本語版 ITSEA の領域(外在化、内在化、調整不全、能力)、17下位尺度、3つの項目群得点について、群間比較を行った。

イ. 原版 ITSEA のカットオフポイントをもとに、臨床群、対照群の日本語版 ITSEA 領域、下位尺度、項目群で問題ありと該当する割合を算出し比較した。

ウ. 臨床群、対照群の日本語版 ITSEA 領域、下位尺度、項目群得点と新版K式発達検査2001の3領域得点、全領域得点との相関係数を算出した。

エ. 原版 ITSEA の ASD 群と日本語版 ITSEA 臨床群の各領域、下位尺度、項目群得点について比較した。

4. 研究成果

小児科クリニック、保育園からのデータ収集により、自閉スペクトラム症の疑いのある幼児47人、発達に問題のない幼児62人(男児59人、女児50人)を対象とした。

① 自閉スペクトラム症の診断を受けているあるいは疑いのある児の特徴について

日本語版 ITSEA の行動/衝動性に関する下位尺度、うつ/引きこもりや全般的な不安に関する下位尺度、消極的な感情に関する下位尺度得点、異常な行動の項目群得点が発達の

問題のない幼児と比べて有意に高かった。逆に、注意、共感、欲求の統制などの能力に関する下位尺度得点、社会的関係に関する項目群得点が発達に問題のない幼児と比べて低かった。これらから、自閉スペクトラム症の衝動的な行動、うつ引きこもり、不安の高さ、異常な行動のみられる傾向、また、注意、共感、欲求の統制や社会的関係に関する能力が低い傾向が示された。日本語版 ITSEA により自閉スペクトラム症やその傾向のある幼児の特徴を把握しやすいということが示唆された。

② 日本語版 ITSEA のカットオフポイントについて

原版 ITSEA で設定されているカットオフポイントをもとに、日本語版 ITSEA の各領域、下位尺度、項目群得点について、臨床群と対照群がどのくらいの割合で問題ありとアセスメントされるのかを検討した。

外在化領域、内在化領域と下位尺度においては、1 領域、2 下位尺度について、能力領域においては 5 下位尺度について、項目群 2 つについて、臨床群の方がより多い割合で問題ありとアセスメントされる結果となった。しかし、調整不全領域では、割合の差はなかった。

日本語版 ITSEA は外在化問題、内在化問題について、特に注意、共感や社会関係性に関する能力について、自閉スペクトラム症、あるいはその疑いのある幼児についての特徴を把握しやすいことが示唆された。

一方で、調整不全に関する問題については、自閉スペクトラム症の幼児と問題のない幼児の差はみられない。この領域には睡眠や食事に関する項目が含まれており、自閉スペクトラム症の幼児のもつ問題として重要な領域でもある。米国と日本の生活習慣の相違からの得点傾向の相違も推察されるため、日本の幼児に適したカットオフポイントの設定が必要であることが示唆された。

③ 自閉スペクトラム症の診断を受けているあるいはその疑いのある幼児の発達について

臨床群の日本語版 ITSEA の能力領域、6 下位尺度得点と、新版 K 式発達検査 2001 の姿勢—運動、認知—適応、言語—社会領域、全領域得点の間に、(順応性下位尺度と姿勢—運動領域得点の間に相関が認められなかった以外) 弱～強い正の相関がみられた。日本語版 ITSEA で能力が高いと査定される自閉スペクトラム症の幼児は、発達月齢が高い傾向があるといえる。一方発達に問題のない幼児の日本語版 ITSEA の能力領域、下位尺度得点と新版 K 式発達検査 2001 の間で、8 つの弱～中程度の正の相関がある以外に相関はみられず、日本語版 ITSEA は自閉スペクトラム症あるいはその疑いのある幼児についての尺度の妥当性が示唆された。

④ 米国の自閉スペクトラム症の幼児との比較

米国の自閉スペクトラム症の幼児の原版 ITSEA 得点と自閉スペクトラム症の診断を受けているあるいは疑いのある幼児の日本語版 ITSEA の得点を比較した。

外在化領域、能力領域、社会関係性項目群得点は、日本語版 ITSEA が有意に高く、内在化領域、調整不全領域、異常項目群得点については低かった。能力領域の 5 下位尺度は、日本語版 ITSEA が有意に高いが、これは原版の ASD 群に対して、日本語版 ITSEA には自閉スペクトラム症の疑い児も含めているため能力得点に大きな相違が出た可能性が考えられる。

原版 ITSEA 得点と日本語版 ITSEA 得点の相違から、日本に合わせた標準値の設定、カットオフポイントの設定が必要であることが示唆された。

5. 今後の研究

今回の研究では、日本語版 ITSEA によって、発達に問題をもつ幼児について特徴を把握できることが示された。また、日本の幼児に合わせたカットオフポイントの設定の必要性が示されたが、既存のデータに標準化のためのデータを追加する全国調査の実施に至らなかった。引き続き、日本語版 ITSEA の全国調査の実施、男女別、月齢群ごとの標準値の設定、マニュアルの作成を目指していきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Satoshi Yago, Taiko Hirose, Aki Kawamura, Takahide Omori, Motoko Okamitsu.	4. 巻 62
2. 論文標題 Gender, age, and cultural differences in the Japanese version of the Infant-Toddler Social and Emotional Assessment	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 Journal of Medical and Dental Sciences	6. 最初と最後の頁 91-101
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11480/jmids.620402	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件／うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Satoshi Yago, Taiko Hirose, Aki Kawamura, Motoko Okamitsu, Michie Nagayoshi, Takahide Omori
2. 発表標題 Regional differences in social-emotional and behavioral problems and competencies in one- to three-year-olds.
3. 学会等名 Zero to Three 30th National Training Institute (NTI) (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 矢郷哲志、岡光基子、河村秋、大森貴秀、廣瀬たい子
2. 発表標題 日本語版Brief Infant Toddler Social and Emotional Assessmentの開発
3. 学会等名 乳幼児保健学会第10回学術集会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Satoshi Yago, Motoko Okamitsu, Taiko Hirose, Aki Kawamura, Noriko Okubo
2. 発表標題 Cultural differences in social-behavioral problems and competences between American and Japanese children
3. 学会等名 15th WAIM World Congress (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Satoshi Yago, Motoko Okamitsu
2. 発表標題 Predictors of social-emotional and behavioral problems and competencies in early childhood in Japan
3. 学会等名 16th WAIM World Congress (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小淵 隆司 (Obuchi Takashi) (50457818)	北海道教育大学・教育学部・准教授 (10102)	
研究分担者	矢郷 哲志 (Yago Satoshi) (00778243)	東京医科歯科大学・大学院保健衛生学研究科・助教 (12602)	
研究分担者	広瀬 たい子 (Hirose Taiko) (10156713)	東京医科歯科大学・大学院保健衛生学研究科・教授 (12602)	2017年9月11日削除
研究分担者	岡光 基子 (Okamitsu Motoko) (20285448)	東京医科歯科大学・大学院保健衛生学研究科・准教授 (12602)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------